

るであろう。即ちその一は放任政策であつて、木材資源の不足 → 供給の減少 → 価格の騰貴という経済秩序自体の自動的均衡回復のメカニズムを経て造林事業（林業再生産）が有利となることを期待するものであり、他は積極的に造林目的の達成を図る政策を取るというやり方である。

II. しかしながら一般に近代国家の多くは種々な理由から造林に積極的な意義を認め、政策的に後者の途を取っている。その最も代表的な一は造林補助金政策というやり方である。即ちそれは周知のように造林者に補助金を交付してやる事によつて、その造林意欲を刺激し、自発的に造林せしめる方法である。この政策は我國を始め、英米等の諸國に於て可成り広く行われているが、その利点は次のようなところに存するものと考えられる。即ち、

- (1) 造林という一般に好まれない仕事に補助金を与えることによつて自発的に造林させる — 即ち好ましい仕事として造林が行われる。
- (2) 山林所有者はその主体が同一の場合が普通であるから、原則としては所有者の意志が尊重され、所有権への干渉による摩擦という問題が起らない。

それ故造林補助金政策は造林政策としては極めて好都合な方策のように見えるが、しかし、他方に加つてこの政策が具現する政策効果（手段 → 目的の關係に於ける）には一定の限界が存している事を注意すべきであらう。即ちそれは補助金の支出に対する限界及び制約であつて、この補助金の支出に際し他の諸々の国家政策のための国庫支出と競合の關係に立つているから、その支出額は当然限定される。しかも実際には更に國家資金の効率的運営という面から検討されると、造林事業のようなその効果の大部分が極めて遠い将来にかけられているものは屢々その獲得に於いて不利な立場に置かれがちである。従つてこれらの制約を受けた補助金額によつてすべての造林者を引付ける保証も亦困難となると云わねばならぬ。實際現実にそれが効果を実現し得るのはその補助金の額で反応を示すクルースの造林者のみに限られるであらう。

育林技術を制約する條件（要約）

丸 大 倉 沢 博

(一)

育林技術といつてもその内容はかなり複雑であらう。今これを育林生産行程（一定の大きさに達した立木の生産）に於て生産手段が合理的經濟性の原則に従つて結合される体系と解する。元來育林技術の内容は大きく二つに分けられる。一つは生産対象たる林木の生活能そのものを選択或は改変する技術、他の一つは林木の生活能は与件として、林木の環境を改変することにより林木生活能の働きを促進せしむる技術である。ここで育林技術というの以後者即ち環境形成技術を指すことにする。然るときこれを制約する條件は何か。

(1) 外在的條件 林木が自然の状態に於ても或る程度の生育は可能 あるため天然林

が存在する。木材に就いても一物一極の法則が働くのであるから、育林行程に於ける総資本及後竹材量(生育期間の関係を含めて)は、天然材採取の異時より大なるを得ない。而して天然材の減少はその採取技術量を高め従つて育林技術量を高める。

(2) 内在的条件

(1) 知的条件 林木最適環境の形成である育林技術に内在して最初にこれを制約する條件は、林木の生活能と環境との關係についての我々の經驗的乃至自然科学的知識の高さである。現在の育林技術はこの條件の一定の高さに於て展開されている。

(2) 有机的条件 そのものとしては無机的行程である環境形成は林木の生活能という有机的性質と結合して生産技術となる。従つて生産量の増加或は生産期間の短縮はこの有机的性質に制約されて所謂收穫進減の法則が作用する。

(3) 空間的条件 林木の環境というのは林木の占める空間の大きさに關係する概念である。例えば全一単位の環境も苗木に於て小さく壯令木に於て大である。技術の投下は一定の効率を基準とするから環境形成技術の投下量は苗木に於て大、壯令木に対して小となる。

(4)

要するに育林技術(環境形成)が外在條件の変化に応じて高度化せんとするとき、技術の内部に於ける發展の方向は有机的條件と空間的條件とに対抗する二方向とその合理的相合せに在り更に知的條件の高度化容認化がその基礎條件であると言える。

胸高直径の個人測定誤差に就て

九大農学部 西沢正久

昭和25年2月27日、鹿児島県薩摩郡白根岳林業調査試験地設定の課人夫個人間の測定に差が認めらるるかどうかを検定するため、Plot 21・29に胸高直径個人誤差測定試験区を設けてスギ21本広葉樹1本計22本に対して11人の人夫に直径巻尺で胸高直径を1種括約で以て測定させた。斜面に対して下方の木の前面にペンキで胸高部位を表示し最初斜面上方より下方に測定し、従つて下方より上方へ表示せる胸高部位を測定させた。従つて1人に対して44回測定、全測定回数484回である。測定結果を個々の測定値を省略して平均値のみを示せば次の通りである。

第一表 測定者別44本の胸高直径平均値(寸)

測定者	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	全平均
平均値	185	199	200	199	201	189	202	188	201	199	201	197